

2015.11
No. 32



佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して *News & View*

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

病院再整備も第二ステージへ



経営管理課 副課長 横尾 寿人

平成24年度から始まった病院再整備も、第一ステージの主要整備であった「南診療棟」、「北病棟」及び「診療支援棟」の新築工事を終え、いよいよ、第二ステージに突入しました。

第二ステージでは、「西病棟」、「中央診療棟」及び「東病棟」といった既存棟の改修が行われます。

西病棟においては、南・北のバルコニーを居室に取り込み、各病室も広くなりました。

また、東西別々にスタッフエリアを設けることにより、休憩室、当直室等を充実させることができました。

さらに、「食事の安全性」、「食事サービスの充実」をモットーに、西病棟1階にあった厨房を整備し、全国で二番目となるニュークックチルスシステムを取り入れた新しい調理法で食事を提供しています。

中央診療棟においては、放射線部、検査部、材料部及び手術部の整備が行われています。特に、手術部においては、バイオクリーン対応、内視鏡対応を含む5室が増設され、南診療棟の9室と合わせ、14室の手術室が

整備されました。これにより、待ち患者さんの減少と手術件数の増加が期待されます。

本年度は、検査部、手術部等の改修が完了し、順次移転が行われています。

西病棟においては、10月末に工事が完了し、11月28日に東病棟から西病棟に移転することが決まりました（一部、北病棟の移転もあります）。

平成25年度に一度は病棟移転等を経験しているものの、患者さん、スタッフの中にも初めての経験となる方が大勢います。患者さん等の安全な移動に細心の注意を払うとともに、病院機能を損なわないよう、慎重に作業を進める必要があります。そのためには、医師、看護師等メデイカルスタッフ、事務等が丸となって移転を完了させることが大切です。

平成26年度から続いている既存棟の改修においては、騒音や振動、仮間仕切りによる通行障害等、皆様には大変ご迷惑をおかけしていますが、今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いたします。



▲厨房カートプール



▲加熱調理室（通路）



▲バイオクリーン対応手術室



▲手術部ホール



▲新病室（4床）

医学部における臨床心理士の活動



地域医療科学教育研究センター 教授 堀川 悦夫

臨床心理士は、米国では博士の学位、日本では学部十修士課程6年の教育と学位取得後に、所定の臨床経験と試験を経て資格を得ています。医学部の臨床心理士の多くは、各々の専門分野の博士の学位を有し、所属部署は、HIV感染者相談支援事業（青山のぞみ先生）、検査部HTLV-I

1外来（柘植薫先生）、精神科（松島淳 病院助教）、看護学科地域・国際保健看護学講座（村久保雅孝 准教授）、地域医療科学教育研究センター（坂本麻衣子 准教授）、同センター認知神経心理学分野（堀川）と、多岐に渡っています。活動範囲は広く、様々な感

心臓カテーテルについて

循環器内科 教授 野出 孝一



心臓カテーテル検査とは、狭心症・心筋梗塞などの虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患の診断や心機能評価などを行う検査です。

平成26年12月から心臓カテーテル室の改修を行い、それに伴い最新のカテーテル装置を導入しました。平成27年8月からようやく2室のカテーテル室が稼働可能となり、心臓カテーテル検査目的の入院や心筋梗塞を含めた急性冠症候群の急患の受け入れも、以前と同様に可能となりました。

当科では年間約650例の心臓カテーテル検査を行い、約250件の経皮的冠動脈形成術（ステント留置術）を行っています。様々な医療機器や装置などを用いて診断・治療

に役立てており、最近では虚血が証明された部位のみに治療を行うことで良好な成績が報告されていますので、冠血流予備量比（FFR）を測定して治療を行うなど、根拠に基づいた治療を提供しています。

急性心筋梗塞などの急性冠症候群は、死亡率の非常に高い疾患であり、早急な診断・治療が必要です。そのため、当科では心筋梗塞ホットラインを開設し、一人でも多くの方の命を救うべく24時間体制で対処しているところです。佐賀県の循環器領域において、最先端、最良の治療ができるよう日々精進してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



▲新しい心臓カテーテル装置と治療風景



染者相談支援、もの忘れ外来や脳卒中後遺症患者さん対象の認知・高次脳機能評価、神経難病、緩和ケア、各種リハビリテーション患者さんの評価や支援、そしてこれらの領域のコンサルテーションを行っています。

現在、関連する診療報酬請求は一部の心理検査やリハビリテーションに限られます。しかし、医療において潜在的な需要があること、そして先の国会で公認心理師法が可決されたことから、今後は臨床心理士の各々の専門性を生かしてより一層診療に貢献できることが予想されます。

病院再整備も第二ステージへ

横尾 寿人

医学部における臨床心理士の活動

堀川 悦夫

心臓カテーテルについて

野出 孝一

診療科紹介

脳神経外科

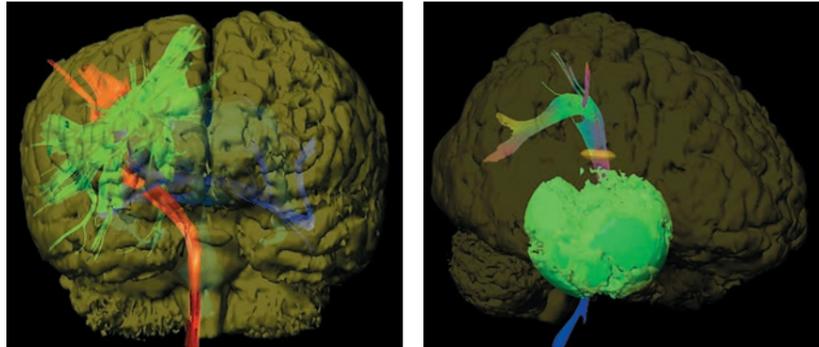


診療科長 阿部 竜也

脳神経外科では、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷から先天奇形に至るまで数多くの疾患を扱っており、新生児から高齢者まで幅広い年齢層の患者さんを治療しています。また、脊髄疾患や頸動脈狭窄症など、頭部以外の神経疾患の治療も行っています。緊急手術も多く、手術件数のうち約40%を占めています。平成27年8月から神経内科と一体となった脳血管センターを設立し、脳卒中ホットラインの運用を開始いたしました。県内で唯一、脳神経血管内治療学会指導医が在籍しており、開頭手術及び脳血管内治療の両者で、質の高い安全な治療法を選択し提供しています。また、超急性期脳梗塞のうちt-PA静注の

対象外となった症例や無効例に対して、カテーテルによる血栓回収術を行っています。最近では、他院にてt-PA静注が効かなかった患者さんを、ドクターヘリで本院へ搬送しカテーテル治療を行い、症状が劇的に改善する症例も増えてきました。脳腫瘍は、最先端の機器を用いた診断・治療を行っています。写真のように術前MRIでの言語野（言葉を理解したり話したりするところ）、運動野（手足を動かすところ）、錐体路（手足を動かす線維）、優位半球の同定に加え、術中のニューロナビゲーション、各種モニタリングの併用によって、脳機能温存と高い治療効果の両立に努めています。また、脳機能温存のため

覚醒下手術を行っており、良好な治療成績が得られています。悪性脳腫瘍では、腫瘍の遺伝子解析を行い（高度医療）、適切な化学療法（分子標的治療）と放射線治療を組み合わせて治療しています。また、小児脳神経外科も得意とする分野で、県内のみならず九州外からも紹介をいただいています。二分脊椎や頭蓋早期癒合症、水頭症などの先天性疾患に対して治療を行っており、小児科、泌尿器科、形成外科と協力したチーム医療を行っています。地域の医療に貢献することはもちろんですが、世界の医学の発展にも貢献する研究、教育も私たちの使命と考え、日々努力を続けています。



MRトラクトグラフィー（手足を動かす重要な神経線維束）で病変との位置関係を手術前に把握し、安全な手術を行います。

「院内緑化推進プロジェクト」

エコロジーガーデンの設置について 経営管理課

本院では、高度で安心、安全な医療を患者さんに提供するという医療の使命と同時に、患者さんへの「癒やし」や「安らぎ」を与える環境の整備にも取り組んでおります。その取り組みの一つとして、平成21年10月から院内に「エコロジーガーデン」を導入し、院内の緑化プロジェクトを推進しているところです。

この「エコロジーガーデン」の設置につきましては、各企業様からのご協賛金により運営を行っており、今回も多数のご協賛をいただきましたおかげで、継続することができました。

ご賛同いただきました皆様にはこの紙面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。また、この院内緑化計画及び協賛活動は、今後も引き続き実施していくこととしておりますが、設置内容等の更なる充実を図るためにも、皆様方のお一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



ご協賛いただきました企業様名（順不同）

- 一般財団法人栄仁会
- 株式会社大栄
- 株式会社永池
- ホテルニューオータニ佐賀
- ワタキューセイモア株式会社九州支社
- 西部特機工業株式会社
- 株式会社マベック
- 株式会社パースジャパン
- 株式会社佐電工
- 株式会社大島産業
- 株式会社竹中工務店
- その他（匿名希望）

専門看護師の役割と活動

本院では、専門的で質の高い看護を提供できるよう、専門看護師・認定看護師の資格取得にも力を注いでいます。新しく資格を取得した看護師を紹介いたします。

慢性疾患専門看護師



1階東病棟 島 歌織

腎臓病の患者さんのケアを中心に活動しています。腎臓病は自覚症状に乏しく、療養継続に困難を感じたり、将来の透析導入を心配したりする方も少なくありません。そのような患者さんがより良い療養生活を送ることができるよう支援を行っています。

がん看護専門看護師



2階北南病棟 前田 美和

平成26年12月に認定を受けました。がん告知から終末期における時期の患者さんやご家族の方への意思決定支援に取り組んでいきます。患者さんやご家族の方の気持ちに寄り添い、希望を支えられるようスタッフと共にケアを行っています。

ボランティアの募集

佐賀大学医学部附属病院でボランティアをしてみませんか？

当院では、よりよい患者サービスを目指し、ボランティアを募集しています。ボランティアの特別な資格や経験は問いません。思いやりのある多くの皆様の参加を期待しています。

※問い合わせ先？ ・ 経営管理課企画担当 電話 0952-34-3107
E-mail : keieikik@mail.admin.saga-u.ac.jp

※ 詳細は『ボランティアのしおり』にご案内しています。
1階外来受付窓口へお気軽にお申し付けください。

連携病院紹介

医療法人ロコモディカル 江口病院

【病院の紹介】

当院は、小城市三日月町にあり、地域に根差した病院を目指してスタッフ一同日々の診療に取り組んでいます。診療科目は、内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、眼科、皮膚科、リハビリテーション科を標榜し、病床数は一般42床、療養56床のケアミックス病院で、多職種での回診を行うなどチーム医療を推進し、在宅復帰支援や訪問診療及び訪問看護による在宅医療・在宅でのターミナル支援等にも力を入れています。

また、肝臓病の専門病院として、常勤の肝臓専門医3名を配置し、C型肝炎に対する最新型経口治療薬や肝動脈化学塞栓療法にも対応した専門的な治療を行っており、黒木副院長によるCOPDや肺がん等の呼吸器疾患の治療も行っていきます。

【本院との連携】

佐賀大学医学部附属病院には、日頃より患者様を快く受け入れていただき、さらには多くの患者様をご紹介いただき、心より感謝申し上げます。



院長 小野 尚文

た、多くの専門医を派遣していただき、最新の知見に基づいた診療支援や医療ソーシャルワーカー及び肝炎コーディネーター、地域連携パスなどを通して様々な連携をさせていただいております。今後も地域のニーズに応えられる安定した医療を提供していくためには、皆様のご支援が不可欠です。今後ともよろしくお願いいたします。

就任挨拶



泌尿器科学講座 教授 野口 満

平成27年11月1日付けで、佐賀大学医学部泌尿器科学講座の教授を拝命しました野口満です。泌尿器科が取り扱う疾患は、今年の男性推定がん罹患率No.1である前立腺がんをはじめとする泌尿器科がんはもとより、高齢社会では避けて通れない排尿障害、メタボリック症候群と深く関連する尿路結石・腎機能障害等、悪性疾患から良性、機能的障害まで多岐にわたります。泌尿器科と言えども、高齢男性のイメージがあるかもしれませんが、女性の患者さんも少なくなく、年齢層も小児から

高齢者まで幅広い患者層です。今後、さらなる少子・超高齢社会での泌尿器科の役割は大きいものと思われまます。この中で、前立腺がんに対するロボット手術を代表とする低侵襲かつ機能温存を旨とした泌尿器科がん治療を中心に、患者数の多い尿路結石の外科治療の他、腎不全に対する腎移植医療、女性医師による女性泌尿器科疾患の診療、小児泌尿器科医療など当科の特徴を生かし、質の高い医療を提供できるように取り組んでいく所存です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。